

Sibelius 2 (4)

音符入力 (その1)

殆どの楽譜作成ソフトは①マウス入力②鍵盤入力を基本的な入力方法に採用しています。タッチパネルで手書き入力というのはまだありませんが、ワープロの入力方法でもキーボード入力をメインとして、マウスを補助的に使うのが主力です。

Sibelius2では、ワープロのように極力マウスのお世話にならないよう配慮されています。その一つが「アルファベット入力」です。図のキーボードの、左手のホームポジション(人差し指) Fのキーの周囲に英語音名 C,D,E,F,G,A,Bが集中していることに着眼しています。つまり、左手だけで音名入力が可能なる事を利用しているわけです。因みにFinaleでもキーボード入力は出来ませんが、AのキーはC、DのキーはEというように音名の機能を持たず、白黒鍵盤のようにZから順番に音階順に配置されています。この場合両手で全てのキーに触れる必要があります。

Sibelius2では、「左手で音程」、「右手で音長」という基本的ルールを設定していますので、ものすごい早さで鍵盤入力ができます。しかも旋律の音楽的な動きから自然な音域に入力されます。例えば上昇音程の場合同じCでもオクターブ高いCが自然な流れなら自動的にオクターブシフトします。強制的にオクターブ移動するときはCtrl+ ↑やCtrl+ ↓(Macでは⌘+ ↑または⌘+ ↓)で移動します。

一方右手はテンキーの上で#や♭を選択するという作業だけに集中します。

同じ数字でもメインキーボードの数字キーは和音のような音程の追加の度数として用います。もう少し詳しく言うと入力した音符に同じ長さの音符で和音を加えたい時3度高い音符を追加するなら「3」の数字キーを押し、逆に3度下の音を追加したい時はShiftキーと一緒に「3」を押します。

和音の度数が数字で打ち込めるのは大変助かります。ただしこれらの操作は派生音を含まない場合で、臨時の#や♭の無い配置になります。勿論最初に調号を設定してあれば#の音すべて#が♭には♭が自動的に添付されます。

凄いののは最初に入力した音からの音程では無く最後の音からの音程入力になっているということです。どういうことかと言いますと、9までの数字ですと最大でも上下9度ずつしか音程は追加できませんが、最後の音言い換えれば直前に追加された音程に次の1~9の音程を改めて追加する事ができるので、これを繰り返せば全ての音域をカバーするまで音程を追加することが出来るのです。

このようにして苦勞して8重和音を入力して次の拍を見たらまた同じ8重和音だったなんて場合、Finaleでは和音のコピーという方法を使いましたが、Sibelius2では、「R」キーを押せば直前の音符や和音を繰り返して入力できます。少し違う音が含まれていてもざっとこの方法で入力して置いて後で小修正の方が簡単です。間違えたら「Delete」または「Backspace」で入力前の状態に戻りますが、音程追加作業中は期待通りの音を取り消されないことが有ります。その場合はメニューバーの左旋回(巻き戻し?)ボタンでいくつでも前にさかのぼれます。←→矢印キーで「拍移動」、↑↓キーで2度ずつ上下修正が簡単です。音符選択の前に「ESC」キーを忘れずに!

「ESC」キーを押さずに小節の音符以外の場所をクリックするとその小節が青く囲まれて選択されます。この時↑↓キーで2度ずつまとめて移調することを見ても、この↑↓キーは本来は移調の機能を持っているのです。

そうそう忘れるところでした。連符は音符入力の最中Ctrl+ 数字キー (Macでは⌘+ 数字キー) で任意の連符になります。休符はスペースバーで。(音符をDeleteしても良い)

